国語科学習指導案

日　時　令和８年１月 22 日（木）
５校時　13：30～14：15
学校名
対　象　第６学年　　組　　名
会　場　第６学年　　組　　教室
授業者

１　単元名　登場人物の「決断」から考えたことを伝え合い、読みの深まりを実感しよう
教材名　「海の命」（光村図書　６年）

２　単元の目標

・　語句と語句との関係について理解し、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識することができる。　〔知識及び技能〕(1)オ

・　人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。　〔思考力、判断力、表現力等〕 C(1)エ

・　文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。　〔思考力、判断力、表現力等〕 C(1)カ

・　言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。　「学びに向かう力、人間性等」

３　本単元における言語活動

登場人物の生き方などについて考えたことを伝え合う活動。（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕C(2)イ）

４　単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　語句と語句との関係について理解し、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識している。((1)オ)	①　「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（C(1)エ） ②　「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)カ）	①　進んで、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識しながら、物語の全体像を具体的に想像し、学習課題に沿って、考えたことを伝え合い、自分の考えを広げようとしている。

５　指導観

(1)　単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年３月告示）、第２章　第１節　国語　第２〔第５学年及び第６学年〕　２内容〔思考力、判断力、表現力等〕 C　読むこと(1)

エ　人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 カ　文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

を受けて設定した。

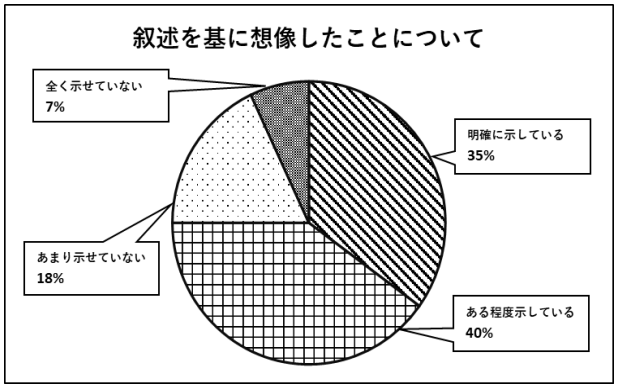
本単元では、登場人物の決断や決断に至るまでの葛藤などに着目しながら、人物像や物語などの全体像を具体的に想像し、考えたことを伝え合う言語活動を中心に設定した。他者との考えの違いを明らかにしたり、考えのよさを認め合ったりすることを通して、学習者が読みの深まりを実感することができる単元とした。

⑵　児童観

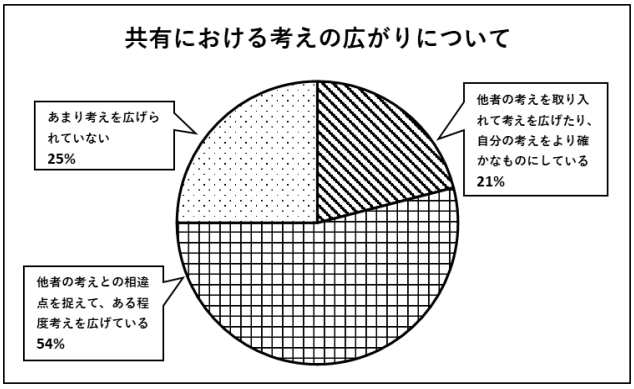
学習者の実態を把握するため、文学的な文章「やまなし」（９月）の成果物を基に分析を行った。

〈実態調査の結果〉令和７年９月 26 日実施 調査人数 28 名

【精査・解釈に関すること】



【共有に関すること】



文学的な文章「やまなし」（９月）では、全文シートを用いて、人物像や展開、情景描写など作者の優れた表現を視点として読み進めながら、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりした。本学級の実態として、物語の展開の中で叙述を基にして想像したことを自分の考えとしてまとめることができた学習者は 75％であった。単元を通しての言語活動として設定した「作品のメッセージについて、自分の考えたことを文章にまとめたり伝え合ったりする活動」については、物語全体を通して受け取った作品のメッセージを共有することを通して、65％の学習者が自分の考えを広げることができていた。

これらの実態を踏まえ、本単元では、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識しながら、作者の優れた表現を丁寧に読み、物語の全体像や人物像、登場人物の生き方や考え方について学習者同士で共有することを通して、考えを広げられるようにする。

⑶　教材観

本教材は、海と共に生きる主人公が自然や様々な人物の影響を受けて成長する姿を通して、人物の生き方や自然との関わり方について描かれている物語である。作中には、自然と共に生きる人間の魅力や自然に対する畏敬の念が表現されている。小学校生活のまとめの時期を迎える学習者にとって、多様な価値観に触れ、自分の生き方と重ねて読むことに適した教材である。

また、作品の書きぶりには、細やかな行動描写、巧みな比喩や色彩の表現、臨場感を生み出す文末表現などがある。これらの優れた表現によって、学習者は、物語の世界観を豊かに想像して味わうことができる。このことにより、主人公の生き方について自分の考えをもち、共有することによって、自分の考えを広げていくのに適した教材である。

＜文章構造図＞

	場面の概要	太一の行動・心情や変化	着目させたい描写・表現
一	少年「太一」と「父」の死	・「ぼくは漁師になる。おとうといっしょに海に出るんだ。」 ・太一はこう言ってはばからなかった。	・海のめぐみ ・こと切れていた ・まるで岩のような魚
二	「与吉じいさ」への弟子入り	・太一は与吉じいさに弟子にしてくれるようたのみに行った。 ・無理やり与吉じいさの弟子になったのだ。	・「もう魚を海に自然に遊ばせてやりたくなっとる。」 ・「千びきに一ぴきでいいんだ。（中略）生きていけるよ。」
三	「太一」の成長と「与吉じいさ」の死	・毎日魚を届けに行った。 ・太一はすべてをさとった。 ・「海に帰りましたか。（中略）ぼくも海で生きられます。」 ・悲しみがふき上がって（中略）両手を合わせることができた。	・村一番の漁師 ・「ここはおまえの海だ。」
四	「母」の悲しみを背負い、瀬にもぐる「太一」	・太一は、あらしさえもはね返す屈強な若者になっていたのだ。 ・母の悲しみさえも背負おうとしていたのである。 ・太一にとっては自由な世界になっていた。 ・太一は壮大な音楽を（中略）父の海にやってきたのだ。	・母の悲しみさえも背負おうとしていた ・自由な世界
五	「瀬の主」と出会った「太一」の葛藤と決断	・興奮していながら、太一は冷静だった。 ・太一は、永遠にここにいられるような気さえした。 ・この魚をとらなければ、（中略）泣きそうになりながら思う。 ・水の中で太一はふっとほほえみ、口から銀のあぶくを出した。 ・クエに向かってもう一度えがおを作った。 ・大魚はこの海の命だと思えた。	・青い宝石の目 ・刃物のような歯が並んだ灰色のくちびる ・岩そのものが魚のようだった ・おだやかな目だった ・本当の一人前の漁師
六	その後の「太一」の生き方	・太一は村一番の漁師であり続けた。 ・生涯だれにも話さなかった。	・村一番の漁師であり続けた ・海の命は全く変わらない

６　年間指導計画における位置付け　（第６学年　読むこと　文学的な文章）

時期	単元名・「教材名」	重点指導事項
５月	視点の違いに着目して人物を見つめ、自分の考えを表そう 「帰り道」	イ　登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。
９月	表現を味わい、作者の物語に込めた思いを探ろう ～「分からない」のその先へ～ 「やまなし」	エ　人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。
12 月	読みを根きょにして、自分の考えをまとめよう 「ぼくのブック・ウーマン」	オ　文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。
１月	登場人物の「決断」から考えたことを伝え合い、読みの深まりを実感しよう 「海の命」（本単元）	エ　人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 カ　文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

７　単元の指導計画と評価計画（全８時間）

過程	時間	学習目標	学習活動	評価規準 （評価方法）
学習目的の理解・見通し	第１時	学習の目的を理解し、学習の見通しをもつことができる。	１　題名の意味を考えたり、物語の内容を想像したりする。 ２　本時のめあてを設定する。 初めて読んで生まれた感想や疑問から、学習計画を立てよう。 ３　教材文の範読を聞く。 ４　初めて読んだ感想や疑問を伝え合う。 ５　単元を通しての学級全体の学習課題を把握して、学習の見通しをもつ。 登場人物の「決断」から考えたことを伝え合い、読みの深まりを実感しよう ６　学級全体の学習計画を立てる。 ７　本時の学習を振り返る。	
構造と内容の把握	第２時	物語の大体の様子や場面について、まとめることができる。	１　前時の振り返りを共有する。 ２　本時のめあてを設定する。 物語の設定や構造を確かめて、個人の「問い」を立てよう。 ３　物語の設定や構造を確かめる。 ４　個人の「問い」を設定する。 ５　本時の学習を振り返る。	

精査・解釈	第３時	学習者が設定した個人の「問い」について、物語を読んで想像したことをまとめることができる。	1　前時の振り返りを共有する。 2　本時のめあてを設定する。 個人の「問い」について、作品を読んで想像したことをまとめよう。 3　個人の「問い」を確かめる。 4　個人のめあてを設定する。 5　個人の「問い」について、物語を読んで想像したことをワークシートにまとめる。 6　本時でまとめたことを伝え合う。 7　本時の学習を振り返る。	ア－① 語句と語句との関係について理解し、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識している。（記述の分析・発言・行動観察） イ－① 「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（記述の分析・発言・行動観察）
	第４時	前時までの学習を基に、学習者が設定した個人の「問い」について、物語を読んで想像したことをまとめることができる。	1　前時の振り返りを共有する。 2　本時のめあてを設定する。 個人の「問い」について、作品を読んで想像したことをまとめよう。 3　個人のめあてを設定する。 4　個人の「問い」について、物語を読んで想像したことをワークシートにまとめる。 5　本時でまとめたことを伝え合う。 6　本時の学習を振り返る。	
	第５時	学習者同士の自由交流を通して、個人の「問い」と自分の考えを見直し、物語を読んで想像したことをまとめることができる。	1　前時の振り返りを共有する。 2　本時のめあてを設定する。 友達と自由交流をし、個人の「問い」と自分の考えを見直し、作品を読んで想像したことをまとめよう。 3　個人のめあてを設定する。 4　これまでの学習でまとめた内容を、自由交流で伝え合う。 5　個人の「問い」と自分の考えを見直し、改善を図る。 6　個人の「問い」について、物語を読んで想像したことをワークシートにまとめる。 7　本時の学習を振り返る。	
	第６時	前時までの学習を整理し、物語を読んで想像したことをまとめることができる。	1　前時の振り返りを共有する。 2　全体のめあてを設定する。 個人の「問い」について、作品を読んで想像したことをまとめよう。 3　個人のめあてを設定する。 4　これまでの学習を基に、物語を読んで想像したことを整理してまとめる。 5　本時でまとめたことを伝え合う。 6　本時の学習を振り返る。	

考えの形成	第７時	学習したことを基に、登場人物の決断について考えたことをまとめることができる。	1　前時の振り返りを共有する。 2　本時のめあてを設定する。 登場人物の決断について、自分が考えたことをまとめよう。 3　個人のめあてを設定する。 4　印象に残った登場人物の言動や考え方について、自由交流で話し合う。 5　前時までの学習を基に、根拠とともに登場人物の決断について考えたことをまとめる。 6　本時の学習を振り返る。	ウ－① 進んで、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識しながら、物語の全体像を具体的に想像し、学習課題に沿って、考えたことを伝え合い、自分の考えを広げようとしている。（記述の分析・発言・行動観察）
共有	第８時 （本時）	物語全体を通して形成した自分の考えを伝え合うことで、考えを広げることができる。	1　前時の振り返りを共有する。 2　本時のめあてを設定する。 友達と考えを共有し、自分の考えを広げよう。 3　個人のめあてを設定する。 4　自由交流で、自分の考えを伝え合う。 5　学級全体で、考えを共有する。 6　自分の考えを再構築する。 7　単元で身に付いた力について振り返る。	イ－② 「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（記述の分析・発言・行動観察）

８　指導に当たって

班テーマ
学習者が変容を実感する授業デザイン　～「読むこと」の学習を通して～

⑴　学習課題の設定の工夫

単元名を「登場人物の『決断』から考えたことを伝え合い、読みの深まりを実感しよう」とし、学習者が単元の学習課題を常に意識できるようにした。そして、学習者一人一人が、その学習課題を解決するために、文章構造や人物像、情景描写や表現等を読みの視点としてもちながら、個人の「問い」を立て、探究していく学習展開とする。

個人の「問い」については、単元の導入で挙がるであろう「太一は、父や与吉じいさからどのような影響を受けたのか。」、「『本当の一人前の漁師』とは何か。」、「太一はなぜ瀬の主を打たなかったのか。」、「『海の命』に込められた意味とは何か。」などの初発の感想や疑問を学級で精査し、学習者自らが追究したい「問い」を設定できるようにする。一人一人の学習者が、異なる「問い」を追究するからこそ、他者との対話の必然性が生まれる。こうした自由進度型の学習展開の過程で、自分の考えを再構築し続けることで、自己の変容を実感することができる。

⑵　学び方の選択の工夫

学習者が本単元について当事者意識をもって捉え、主体的に学べるよう、学び方を自己調整できる環境を提供する。これまでの学習経験から、対話する相手や場、教材・教具を学習者自身が目的に応じて選択できるようにする。

また、ヒントカードや既習の掲示物、作者の他作品、朗読を聞くことができる場等を用意し、学習者の学びを支援する。これらの手立てにより、学習者が着目すべき叙述を焦点化し、自力で解決に向かえるようにする。こうした自己調整を繰り返すことで、学習内容の理解を深めるとともに、自らの学び方の変容を実感できるようにする。

⑶　振り返りの充実（記録・蓄積・活用）

本単元では、各時間の読みの過程を蓄積していく個人の全文シートとともに、学習者全員がオンライン上で考えを共有して学習記録を蓄積できる一人１台学習者用端末のプラットフォーム機能を活用する。学習者の個人の「問い」の一覧表や着目した表現、人物相関図、学習者の振り返りなどを一元化して参照できるシートを作成し、いつでも閲覧・編集して活用できるようにする。学習集団としての学級の学びの蓄積を振り返りながら毎時間の学習に向かうことで、個人に留まらず、学級全体での変容の実感をもてるようにする。

⑷　振り返りの共有・価値付け

毎時間の学習者の振り返りを分析し、個々の学習状況を把握する。加えて、学習者の気付きや学び方について指導者が価値付けを行うことで、学習者自身が自己の変容に気付けるようにする。また、振り返りの記述の中から、学習内容と学び方の両面から価値付けたい事柄を抜粋して学級全体に共有することで、本時の学習の方向性を確かめることができるようにする。こうした過程を基に、学習者自身が、一単位時間内の変容や単元全体を通した変容の実感を得ることができるようにする。

９　本時（全８時間中の第８時）

⑴　本時の目標

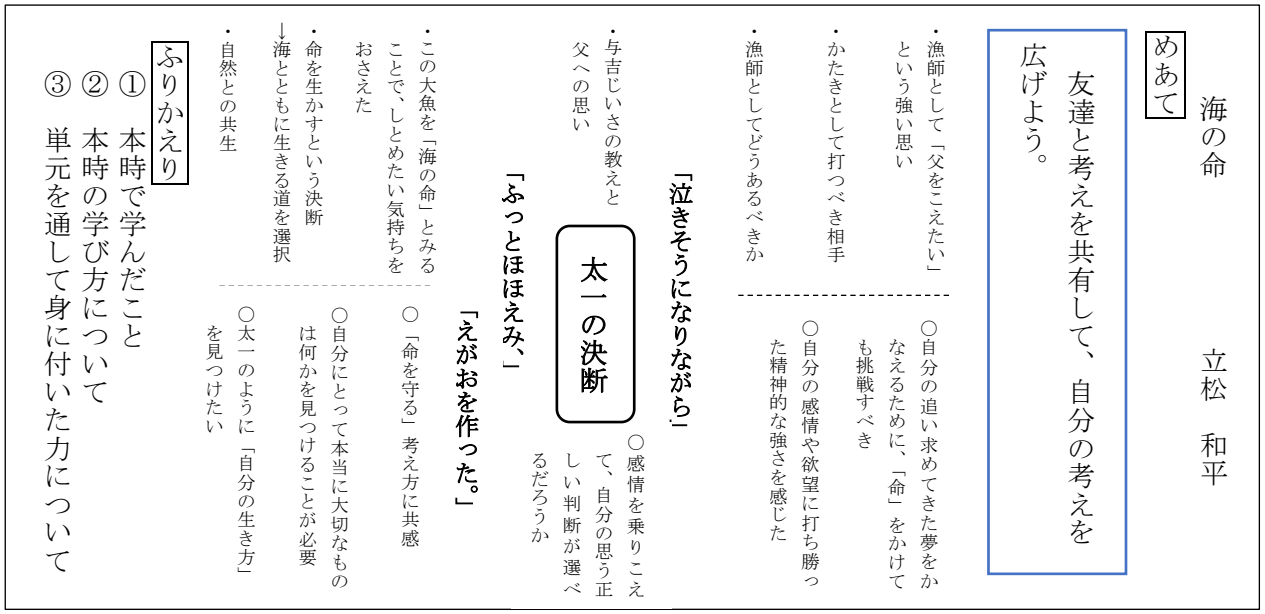
物語全体を通して形成した自分の考えを伝え合うことで、考えを広げることができる。

⑵　本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準 （評価方法）
導入 ５分	１　前時の振り返りを共有する。	・　前時の学習者の振り返りを抜粋して提示することで、学習者の学び方を価値付け、本時の学習の方向性を示す。	
	２　全体のめあてを設定する。	・　学習計画を基に、学級全体のめあてを立てるようにする。	
	友達と考えを共有して、自分の考えを広げよう。		
	３　前時の自分の振り返りから、個人のめあてを設定する。	・　一人１台学習者用端末のシートに記録した前時の振り返りを見直し、全体のめあてと照らし合わせながら個人のめあてを設定するように促す。	
展開 35 分	４　自由交流で、自分の考えを伝え合う。	・　意図的なグループ編成等は行わず、学習者が選択した相手やグループで多様な考えに触れられるようにする。 ・　これまでの学習をまとめたワークシートを基に、以下の観点で考えを伝え合うように促す。 ①　太一の決断への解釈（決断に至る葛藤を含めて） ②　決断に対する自分の評価（既有の知識や自己の経験を踏まえて）	イ－② 「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（記述の分析・発言・行動観察）
	５　学級全体で、考えを共有する。	・　指導者が方向付ける質問を行いながら話合いを支援し、共有時に学習者が把握しやすいよう、黒板に意見をまとめていく。	

	6　自分の考えを再構築する。	・　一人１台学習者用端末のシートに記録したこれまでの振り返りを見直し、自分の考えの変容を確かめてから考えをまとめ直すことができるようにする。 ・　自由交流や学級全体での共有の内容を基に、考えを整理して最終的な自分の考えを記述するように促す。	
まとめ ５分	7　単元で身に付いた力について振り返る。	・　以下の観点で振り返りを行うように促す。 ①　本時で学んだこと ②　本時の学び方について ③　単元を通して身に付いた力について	

⑶　板書計画



⑷　授業観察の視点

・　学級の課題と個人の課題を設定した課題解決型の単元構成は、学習者の主体性や学習の自己調整を促し、学びの変容を実感することに有効であったか。

・　「登場人物の決断」に着目した言語活動の設定は、学習者が共有する意義や必然性を捉えながら学習に向かい、自分の考えを広げたり深めたりする上で有効であったか。